

「これが僕らの音」

県立神戸高等学校長
新谷 浩一

○ BEFORE

学年ごとの合唱コンクールの熱戦が繰り広げられた3日間、すべて出張が入ってしまい、1クラスたりとも歌声を聞けないと解ったとき、私にはある思いが沸き起こります。それは「すべてのクラスの練習シーンは見せていただこう」というものでした。早朝、昼休み、放課後と私は学校にいる時間はすべてそのための時間にしました。その結果として、合唱コン最終日の朝にようやく27クラスのコンプリートに成功しました。

そのうえで後日、審査結果を聞かせてもらいました。

79回生	1位 4組	2位 2組	3位 8組
80回生	1位 7組	2位 2組	3位 1組
81回生	1位 9組	2位 4組	3位 8組

「さもありなん」そう思ったクラスもあれば、「あのクラスが残れないなんて…」そう意外に思ったクラスもあります。私の耳の問題もあるでしょうし、当日の各クラスのコンディションの問題もあるのでしょう。「それにしても…」と思います。一発勝負の重みと、終盤に追い込みをかけたクラスの底力を感じましたね。



勝ち残った6クラスの歌声、楽しみでした。その気持ちを煽るかのように、前もって音楽会のリーフレットを自治会の藤本副会長と橋本さんが届けに来てくれます。これもまた音楽会にふさわしい実に洒落たデザイン。期待、自ずから高まりますよね。

○ The Day

華やかなファンファーレでスタート。開会の挨拶ではこんなことをシンプルに話すことにしました。

きれいな音色に耳を澄ます前に、長々と話をするのは粹ではないので手短かに挨拶を。さあ、音楽会の開幕です。この伝統ある行事を途切らせることなく開催できること、嬉しく思います。自治会を始め、真摯に準備、練習に励んでくれた皆さん、本当にありがとう。

さて、舞台に立ち、合唱コンクールで歌う皆さん、個人出演で演奏を聴かせてくれる皆さん、そして文化部の皆さんは皆、神高生の代表です。「これぞ神高生」という姿を見せてください。くわえて、あなたの声を、あなたの音を奏でることで、私たち聴衆の心をぐらぐらと、さんざん揺り動かしてください。感動させてください。そしてフィナーレで『サリマライズ』を全員で合唱し終えた瞬間には、すべての神高生が自分たちが奏でた音の余韻に浸っていることを心から願い、開会の挨拶とします。

続いての自治会長の鶴来くんの挨拶、実に見事でした。神戸市歌『しあわせ運べるように』のエピソードを核にして、歌は自分の気持ちはもちろん、聴いている人々の気持ちも変えてくれるという話。文字通りそんな1日になったのは鶴来くんの予言のお蔭ですかね。

スタートから飛ばしてくれたのは吹奏楽部。見ての通り緩急自在の熱いステージでした。



続いての出番は合唱コンクールを勝ち抜いた6クラス。どのクラスも「ならでは」の味のある歌声でしたね。



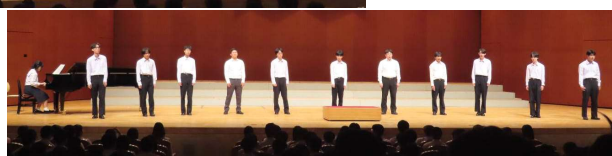
続いて登場は個人演奏の3組4人。
開会式で私はお願いしました。
「普段の学校生活では隠している爪
をさんざん見せてくださいね」と。
爪、見せてくれましたね。

続いて登場した箏曲部も、時に気高く時に激しく、堂々たる演奏ぶりでした。そんな舞台の雰囲気を一転させたのは電子オルガン部です。冒頭のポージングに会場は沸きましたし、演奏中は客席からの手拍子が鳴りやむことがありませんでした。



弦楽器とのコラボレーションも新鮮でした。続いて登場した合唱部は関西大会金賞受賞がさらなる自信を生んだのでしょう。圧巻の歌声を響かせてくれました。顧問の大中山先生とOBの岡田倫尚先生も参加。華を添えてくれました。

やがて舞台は弦楽部、そこに吹奏楽部が加わり、管弦楽部に。今年も指揮者の山本先生の煽りにより、会場のボルテージは最高潮に達していきます。



さあ、フィナーレです。音楽選択者に加え、有志も舞台にあがり、合同演奏の『ハレルヤ』。ふと客席を見ると、3年1組は皆、ステージに上がっていました。素敵なクラスですね。続いて、合唱コンクールの文化委員長からの結果発表と自治会長による表彰がありました。1位から順に3年4組、3年2組、2年7組の皆さん、おめでとうございます。



エンディングは全員合唱での『サリマライズ』。僕らの音をホールいっぱいに響かせました。素敵な1日になりましたね。生徒の皆さん、保護者の皆様、そして先生方に心から感謝です。

